

大道芸アジア月報 2024 年 7 月

vol. 36, no. 7

編集・発行人 上島敏昭

〒165-0025 東京都中野区沼袋 2-31-2

春山荘・東

★大道芸案内

主な大道芸スポット（土・日・祝日など、通年大道芸が見られるポイント）

■大阪・天保山海遊館広場 <https://www.kaiyukan.com/thv/marketplace/>

■大阪パフォーマーライセンス <http://www.osaka-performer.com/index.php>

■名古屋・大須ふれあい広場 ■名古屋 POP UP ARTIST <http://popup-artist.com/index.html>

■しずおか大道芸の街 <http://shimaruikai.org/> ■江ノ島大道芸 <https://www.fujisawa-kanko.jp/feature/daidoge.html>

■ヨコハマ大道芸（山下公園、グランモール公園、） <http://daidoge.jp/>

■お台場・デックス東京ビーチ ■テラスモール湘南 www.studioeggs.com

■東京都へブンアーティスト <https://www.seikatubunka.metro.tokyo.lg.jp/bunka/heavenartist/>

■中部大道芸ネットワーク <https://www.facebook.com/mrkrddg>

■仙台まちくるパフォーマーズ <https://machi-kuru.com/performers>

★浅草雑芸団・夏の恒例・木馬亭公演

〈昭和百年-0.1（マイナスイブ）7月11（木）12（金）両日とも18:00開演（開場30分前）

ゲスト：チンドン芸能社、チンドン菊乃家、大場ひろみ

前売り・予約¥3000（当日¥3500）

★今月の大道芸公演

△第16回シアターX国際舞台芸術祭（IDTF）<http://www.theaterx.jp/24/240615-240721p.php> ○両国シアターX

●開催中～7月21（日）

7/4 シアターXマイム塾5期生『分光器』/舞踊集団モダンディーズ『壁と空』/足立七瀬『Just Fit』

7/6 ヒガヨン・セラ『“シアターX詩のカイ”番外篇』/スクジローレナ『エリオットの男とベケットの女』

/bug-depayse『golden record』

7/7 武井よしみち&ブルーボウルカンパニー'96『BPM76, or71 地球を歩く』/一色真由美『原色のモメント』

/キタムラアラタ『WIG(ウィグ) Wayfaring In Grief』

7/9 ひびきみか『Essential OHNO「BUTOH the inevitable」Digest Edition』/アベレイ『宙の息吹（Sorano Ibuki）』

/赤羽企画『喰人鬼』

7/11 松永茂子『水をまたいで、、、』/八木昭子『ロッカバイ』/阿部友紀子『倉庫の明かり』

7/13 酒井エル+堀ゆかり『瞳をとじて 月がみる』/Rubydance『Wow!』/演劇ユニット夢棧敷『日本のますらめ（女）は謳う』

7/15 加世田剛『Earth man』/宇佐美雅司『Listen to the He:art -Love Letter-』/保坂尚代『破壊、消滅、その先に…』

7/17 江ノ上陽一（スーパーパントマイムシアターSOUKI）『with friends』/原牧生+柳家小春『たけくらべ 新内で語る樋口一葉』

/51 ROOT Project『ROUTE_X』

7/19&20 皆藤千香子（ドイツ）『Hope』

7/21 クロージング・ガラ（ジョスリーヌ・モンペティ Jocelyne Montpetit（カナダ）/ケイタケイ+ラズ・プレザー

/池田直樹（オペラ歌手）/邦正美 創作舞踊研究所

各日¥1000（全席自由）

△演の祭典 2024 <https://ameblo.jp/asakusapp2/entry-12844335666.html> ○Café WE、あさくさ劇亭

●6月29（土）30（日）

Café WE 6/29 19:00 開演 出演：イーガル、てのひら、おっとちゃん

6/30 19:00 開演 出演：三雲いおり、彦一団子、佐藤達（劇団桃唄 309）、おっとちゃん

各¥2500+オーダー

予約フォーム <https://forms.gle/RXgX4nshcg76m2CQ8>

あさくさ劇亭 6/29 12:00 開演 ソらと晴れ女「舞踏マイム劇・夜長姫と耳男」

14:00 開演 てのひら「そうだったよね、映像だったもんね、前」

16:00 開演 パントマイム Mr ふじやん。「mr ふじやん。のザ・ベスト、2020」

18:00 開演 トワコバチーム「ひとくちサイズのブラウニー」

20:00 開演 マスターとボンバンダー「ウキスキーを味わうかのようにじっくり現在を語る」

6/30 12:00 開演 たかくわのおよチャタふじい「日曜12時オムニバス劇場」

14:00 開演 てのひら「そうだったよね、映像だったもんね、後」

16:00 開演 サクノキ「Life is Life」

18:00 開演 トワコバチーム「ひとくちサイズのブラウニー」

20:00 開演 メランコリー鈴木「哀愁短編集」

予約方法、料金などはHP (<https://ameblo.jp/asakusapp2/>) にて確認してください

△道の駅まくらがの里こが 11周年祭 <https://ibanavi.net/event/15722/> ○道の駅まくらがの里こが (古賀市大和田 2623)

●7月5 (金) ~ 7 (日)

マジシャン塚原ゆうき、大道芸人たいち、マジシャン HAKU、大道芸人イタマコほか

△第37回下町七夕まつり <https://shitamachi-tanabata.com/event.html> ○台東区・かつば橋本通り

●7月7 (日)

△エンターテイメント亀戸! vol.16 <https://www.kameidodaidogei.com/> ○江東区亀戸十三間通り商店街

●7月7 (日)

口岩美保子、ものまる、川村建太、Tensei Ago、ハードパンチャーしんのすけ、アートパフォーマー☆ファイター☆、アストロノーツ、パルーンアート MARIMO、ソらと晴れ女、チロル、楽飛天

△西尾大道芸フェス in 西尾祇園祭 <https://nishio-gion.com/> ○エニシキ特設会場ほか

●7月13 (土) 14 (日) 17:00~20:00

△サーカス学会 ○早稲田大学戸山校舎

●7月13 (土)

△キラリ☆ふじみサーカスパザール <https://www.kirari-fujimi.com/program/view/706> ○富士見市民文化会館キラリ☆ふじみ

●7月13 (土) 14 (日)

〈サーカスショー〉「きみといてもいなくても」

出演: アスタリスクノヴァ、サクノキ、油布直輝、森田智博×長すみ絵、鈴木仁、由宇里

両日とも 13:30 開演 (13:00 開場)

料金: ¥1500、中学生以下 ¥800

上記HPより購入

〈シン・大道芸ショー〉

出演: 天才イカレポンチ、kaja、koe、沢入国際サーカス学校 (リユーセー、サゴー、鳥居大幹)

入場無料

〈水上ステージ〉

出演: 沢入国際サーカス学校メンバー

〈小さなサーカス 音楽隊の大パレード〉

△あしたの劇場 世界をみよう! <https://za-koenji.jp/detail/index.php?id=3174> ○座・高円寺

●7月13 (土) ~ 28 (日)

A「フラッグ」(ゼロコ/日本) 7/13~7/15

B「トーン」(シアター・ブリック/デンマーク) 7/21~7/22

C「どろんこ」(カンパニー・ル・ジャルダン・デ・デリス/フランス)

D「ごきげんならいおん」(シアター・ハンドホルト/デンマーク)

おとな: ¥2500 (18歳以上)、子ども: ¥1500 (小学生以上)、未就学児 ¥500

座・高円寺 WEB チケット <https://www.e-get.jp/za-koenji/pt/>

△沢入国際サーカス学校発表会 <https://www.circus-mura.net/> ○沢入国際サーカス学校 (わたらせ渓谷鉄道「神戸」駅下車5分)

●7月20 (土) 21 (日)

△四国中央紙まつり <https://kami-maturi.jimdo.com/> ○四国中央市紙まつり会場

●7月27 (土) 28 (日)

△いいだ人形劇フェスタ 2024 <https://www.iida-puppet.com/posts/> ○飯田市全域

●8月1 (木) ~ 4 (日)

オマールえび、グレコの音楽一座、チバドロ・アノ、ふくろこうじ、江戸系あやつり人形、ほか

△エンターテイメント亀戸! vol.16 <https://www.kameidodaidogei.com/> ○江東区亀戸十三間通り商店街

△第017回はこだて国際民族芸術祭 2024 <https://wmdf.org/> ○函館市元町公園ほか

●8月5 (月) ~ 11 (日)

ボード山田、ボンバンゲー、クラウン・チャッピー、クラウン・リオ、ダメじゃん小出、プリコロハウス、SUKE 3 & SYU、タカパーチ、手廻しオルガンキノ、油井ジョージワンマンバンド、

△とちかち夏空大道芸フェスティバル 2024 <https://www.tokachinatsufes.com/> ○帯広市

●8月14 (水) 15 (木)

△アートタウンつくば 大道芸フェスティバル 2024 <https://arttown.amebaownd.com/> ○つくば市

●8月24 (土) 25 (日)

若林正の

食って極楽

芝居のキエモノ

「オムライス」

出演した舞台は、全日程満席の盛況で千秋楽を迎えることができました。小さな古民家での公演とはいえ、ありがたいことである。今回は食べ歩く余裕が無くて、ここに書くネタとしては異例だがキエモノ、つまり舞台上で実際に食べる消えもののお話。

芝居は、家に逃げ込んできたメイドカフェの女の子達を匿う爺さんのお話で、ラストに彼女たちからオムライスを振る舞われる。

9回の公演本番プラス稽古で12食のオムライスを食べるのだ。もちろん舞台上で完食出来ないけど、終演後責任を持って残さずいただく。一日2回公演なので本番中は二食がオムライス。手作りならともかく冷凍食品。具は殆ど無くて塩味が強め、要するに美味くない。

しかしながら、メイド役の女の子達が少しでもワタシに楽しそうに食べてもらうため趣向を考えてくれた。最初はハートや犬猫のイラストをケチャップで描いていたが、そのうち動物の名前の難読漢字を調べて、器用にオムライス上にケチャップで書いてクイズとして出題してきたのだ。

芝居のラストでニコニコと運んでくる。毎回公演前に私の目に触れないようにこっそり作って、おかげでその場面は毎回楽しく演じることができた。もともと本人達が一番楽しんでいたと思うけど。



○しばらくオムライスは食べない度＝3ワカ

大道芸・見たり・聞いたり・演じたり
☆その 392

シアター x 国際舞台芸術祭

上島敏昭

○ガザに劇場を

両国の劇場シアターx (カイ) で国際舞台芸術祭が開かれている。公演は7月21日まで、ほぼ隔日に行なわれるといい、チラシによれば20日、56作品がリストアップされている。今回が第16回目となる催しで、ピエンナーレというから、30年以上続いているようだ。十年以上前になるが、この劇場では「フルール祭」と称して、欧米の道化師を招聘したフェスティバルを、何回かおこなっていたこともある。このあたり、江戸時代は見世物や茶店がならんでいた日本一の盛り場であった。現在、劇場の建っている場所は、明治以降に両国国技館が建てられ長く角力興行が行なわれていた跡地で、その記憶をとどめるために敷地内には、原寸大の土俵が描かれている。まさしく伝統的な芸能の聖地なのだ。



フルール祭のころはよく通ったが、それ以後はしばらく疎遠になっていた。沢入国際サーカス村村長の西田敬一さんから連絡があり、このフェスティバルで、「ガザ・劇場・穿(うが)つ」と題した公演を構成するので観に来ませんかと誘っていただいた。もちろん二つ返事でお誘いにのった。

このタイトルをみて頭に浮かんだのは、昨年12月におこなわれた沢入サーカス学校公演のあとで、西田さんが突然言い出した「ガザに劇場を建てよう」という、「スローガン」(?) のことだ。その数日後に発行されたサーカス村通信には次のように書いてある。

〈(「一人ひとりのための、みんなのための、文化・芸術の場“シアターガザ”を創ろう」という、突飛なアイデア)は、イスラエルによるパレスチナの人々へのジェノサイト的な武力攻撃が行われている時に、なにをトンチンカンな絵空事を、と批判されるかもしれないのだが、“シアターガザ”を創ろうというのがひとつの運動になれば、それが平和への道のひとつになるのではないかと考えることはできないか。

武力ではなく、文化・芸術による解決の方法を模索することは、私たちが求めなければならないことにちがいないのではないか。(略) 直径五十センチの土地を立てることができればなどと夢みているが、それよりもまずは、この計画に賛同して一緒になって、文化・芸術活動の場“シアターガザ”の考えそのものを深め、活動してくれる人々に集まってもらいたい。さまざまな

考えをすり合わせながら、そこから新たに生まれてくるさまざまな言葉の力で、“シアターガザ”の可能性を高めていきたい。)

要するに、昨年12月には、単なる「思いつき」であったアイデアが、実現にむけて動き出したということだろう。

○ガザ・劇場・穿つ

舞台は一人の男が土を掘っているパントマイムではじまった。薄暗い照明のもと、しばらく何も起こらず土掘りのパントマイムがつづく。土を掘る“芝居”でも“ダンス”でもなく、まさにパントマイムで、思わず目を見張った。しばらくすると、舞台上手奥から女性がゆっくりと出てくる。全身を包むのは中東風の衣装で、腕には人形を抱えている。舞台を斜めに横切り、土を掘る男の横を通り過ぎ、客席の一番前あたりに行くと、人形を静かに寝かせた。おそらく人形は子どもの亡骸なのだろう。としたら彼女は子どもを埋葬したにちがいない。女性は来たときと同じように、ゆっくりと舞台を斜めに横切って舞台を去った。男は、何の感情もないように、ひたすら土を掘っている。まもなく再び、同じ女性が上手奥から登場した。やはり人形を抱えているが、今度の人形には、頭がない。爆撃で首が飛ばされたのか。それともこの女は狂女で、首が飛ばされた人形を作って、それを抱えてさまよっているのかもしれない。いや、ほかの状況も考えられるかもしれない。なんの説明もないまま、女はさきほどと同

じようにゆっくりと舞台を斜めに横切り、土を掘る男の前に来る・・・と、こうしてゆっくりゆっくり、静かにしずかに舞台は進んでいく。土を掘る男と人形を抱えた女とは、交流しそうになりながら、ほとんど交流せずに、つまり劇的な出来事はなにも起こらず、薄明かりのもと、ひたすら重苦しい時間だけが過ぎていく。

すると一転して、舞台が明るくなり、紙芝居屋が登場して、紙芝居が始まる。紙芝居は第二次大戦における沖縄の虐殺のはなしである。約 80 年前の沖縄と現在のガザが重なる。紙芝居のあとは再び土を掘る男と子どもを抱えた女の世界に戻る。印象的なのは、布が被せられた箱の向こうで女性の裸の背中に強いスポットライトが当たった光景で、箱はもしかしたら棺桶なのか、いずれにせよ強烈な痛々しさを感じた。

そのあと、若い男性が大きな、自分の身長以上もある、金属製の輪を転がしながら登場した。細かい手順は覚えていないが、舞台中央あたりまで輪を転がして進んだあと、輪をころがすと、ひとりで転がった輪は舞台をゆっくりと一回りして、男性のところにもどる。彼がすこし手を添えてコントロールすると、再び輪が自走して、さきほどより一回り小さく舞台を一周しもとにもどる。これをなんだか繰り返すうちに、男の周りを輪がぐるぐるぐるぐるまわっていた。シルホイール、あるいはラートとよばれるサーカス芸である。男は両手両足をのばして輪の内径に入り、輪と一体になって転がったり、輪をコントロールして回転の面白さや、倒れそうになる危ういバランスを見せたりする。生きている人間と単なる金属の輪が、協同しながら動きを作っていく。さまざまな動きをみせた最後、男が天に向かって腕をまっすぐに伸ばして舞台に倒れると、その周りを輪



はゆっくりとまわり、やがてバウンドするように、バタバタバタバタと音を立てて輪も倒れた。輪のなかで男の腕だけが天を指している。その腕をスポットライトが真上から照らしていた。

西田さんの言っていた、「劇場の柱の最初の一本」とは、この腕のことだろうか。そんなことを考えていると「10 分間の休憩です」とアナウンスが入った。

○アフターミーティング

後半も終ると、「アフターミーティングがあります」とアナウンスがあった。シアターα主催の催しでは、「アフターミーティング」と称して公演のあと出演者と観客とがロビーで交流するのだという。西田さんに誘ってもらった手前、知らん顔して帰るわけにもいかず、ロビーの隅っこにすわった。そこでお客さんから西田さんに、「どのようにして作品をつくったのか」と質問が出た。それはわたしも知りたかったことだ。西田さんによれば、「ガザに劇場を」という訴えをしたとき、二人が反応してくれた。それがパントマイムの北京一（きたきょういち）さんとダンサーのひびきみかさんと、まずお二人に声を掛けたという。さらに紙芝居のじゅうべえさんに声を掛けて沖縄戦の作品を依頼し、自身のホームグラウンドであるサーカスからシルホイールの油布直輝さんを加えたとのこと。そのメンバーが決まった時点で、作品はできたようなものだったという。たしかに 4 人がそれぞれ別の世界に住んでいるような作品で、相互が深くかかわることはないから、それでできたようなものだったのかもしれない。シルホイールにはしずかな音楽が BGM として使われるが、これも彼がふだん使用しているものという。西田さんはそこにキング牧師の演説を重ねてメッセージを重ねたそうだが、シルホイールの演技はいつもやっている通りだという。天に向った伸びた腕を一本の柱を思ったのは、単なる私の思い込みだったのだ。

そういう意味でいえば、休憩後には二人がそれぞれ作品を公演したが、アフターミーティングで紹介してくれるまで、その二つの作品も、西田さんの「ガザ・劇場・穿つ」の一部だと思っていた。簡単に説明すると、ひとつはハンダイズミ「棲息地」。これは、まず演者が電源コードを巻いてあるドラムのようなものをもって登場して、コードを床にのばして舞

台のうえに直径 5~6 メートルのサークルを作った。これが彼女の棲息地なのだろう。休憩前のシルホイールの輪が、コードのサークルに置き換えられたと思ったのは私だけではないだろう。アフターミーティングで彼女は、子どもの頃に読んだ『あなたは星の子ー宇宙のはなし』という絵本が発想の原点といい、最近買い直したというその本を見せてくれた。今、私が居るこの場所は、この家のどこかであり、町のどこかであり、県のどこかであり、国のどこかであり、・・・しまいに宇宙のどこかであり、と無限に広がっていく。逆に、私のなかにある小さな宇宙も、無限に小さな宇宙を抱えている。そうしためまいがするような広がり、縮まりを作品に作りたいのだという。なるほど、そのように考えれば、いまここで何でもない日常をおくっている私が、宇宙のなかで生きていることは、じつはとても尊いことだと思えてくる。

二つめはチェン・ジェウ「無人島」。演者は背もたれのないイスをもって登場し、舞台中央にイスを置くと、そのイスをステージにして右手首をつかったパフォーマンスをはじめた。人差し指と中指を脚にした、一種の人形劇だ。シルホイールからコードのサークルへとつながった場所は、ここではイスに受け継がれた。しかしこの右手首は本人の思い通りにならない。左手で捕まえようとしても、逃げる。それどころか敵意をむき出しにして、逆に攻撃してきたりする。まもなくイスを引っ繰り返し、押えようとする本人を引っ張り回して、舞台上を暴れ回る。テーマは“孤独”ということらしい。逆説的に自身が分裂しているのだろう。いずれの作品も、場所と人間がテーマであって、そうした意味では、全体がひとつの作品といっても、おおかた的外れにはなるまい。三作品は、共通のテーマをもっているのだ。今回の国際舞台芸術祭のメインテーマは「地球 惑星人としていま」というのだが、いまの地球を考えたとき、ウクライナで、そしてガザで、おこなわれている、およそ理不尽な殺戮を無視することなどできるはずもなく、どんな作品をつくっても同じ糸で結ばれてしまうのかもしれない。いろんなことを考えさせてくれる一夜であった。